

チンパンジーを使った実験

実は、私も、チンパンジーに漢字を教えてみたい、とかねてから思っているのですが、わが国ではチンパンジーを育てることはたいへんで、なかなか実行に移せません。アメリカではそういう実験がなされていて、実に素晴らしいことだと思います。「サイエンス」という雑誌に、五、六年前でしたか報告されたものがありますので、それをちょっとご説明したいと思います。

(下の図参照)



プリマックというアメリカの学者が、生まれて間もないチンパンジーにサラと名づけて、自分の子どもと一緒に育てながら、言葉

や文字を教えることを試みました。言葉は全然覚えられないのです

が、文字 と言ってもご覧のように、図形による符号ですが、の方は覚えて、それを使いこなすまでになりました。図をご覧下さい。サラ、つまり「私」に当たる内容の言葉を猿のかたちをした図形で表わしています。「入れる」という動作を星型の図形で、「りんご」は三角形で、というふうにして単語を作り、まずこれを覚えこませます。次にそれらを英文法に則って構文することを教えます。これらの単語を表わす図形は、裏に磁石をつけたプラスチック製のもので、鉄製の黒板に張りつけるようになっています。

もう四年くらい前になりますが、私がアメリカへ参りましたときに、このサラというチンパンジーが学習しているところを記録した映画を観ましたが、実に見事に人間と問答するのです。単語を150語くらい覚えて、これを完全に使いこなします。たとえば、赤いりんごを見せて「このりんごは青い」と文章で示しますと、「ノー、このりんごは青くない、赤い」と、英語の文法に則り単語を並べるのです。また、「お前はバナナとりんごとどっちが欲しいか」というふうにして単語を並べると、りんごを食べたければ「りん

「ごが欲しい」という返答をするのです。それから、チンパンジーがタイプを打つと、やはりこういう種類の文字が壁面に表われて、人間とチンパンジーがそれを見ながら会話することができるという、ジュアン・ランボーという学者の報告が、「リーダーズ・ダイジェスト」(昭和51年12月号)に掲載されました。とにかく視覚言語は耳で聞く言語よりも覚えやすいことが、これによっても証明されているのではないかと思います。